



《将来に向けた取組方針》

当グループは、商品・サービスの開発や提供および投融资等グループのあらゆる事業活動において、環境・社会・企業統治（ESG）等のサステナビリティに配慮し、気候変動への対応、自然資本の保全および人権尊重の3つの分野を中心に、具体的な取組みを進める。その中で生物多様性については自然資本の持続可能性向上という観点から、自社単独で、また、パートナーシップ等により環境保全の取組みを行うとともに、損害保険グループとして、自然資本に関わるリスクを見つけ、予防し損害を軽減するソリューションを提供し、自然資本と事業活動との持続可能な関係構築に向けて取り組む。

リスクを見つけ予防・軽減するソリューション

事業活動による自然資本への影響を分析・評価し、影響・損害を最小限に抑える

- 自然資本の枯渇や劣化等のリスク評価
- 地域の生態系に配慮した土地利用のコンサル
- 保険等を活用した必要なリスク補償の提供

パートナーシップ等による保全取組

- JBIBに参加、生物多様性シンポジウム開催
- 生態系の防災・減災および多面的な利用に関する研究への参画等

グループ内の環境保全の取組み

■ MS&AD ラムサールサポーターズ

社員等による、全国のラムサール条約登録湿地を中心とした水辺の環境整備等の生物多様性保全取組



■ インドネシア熱帯林再生プロジェクト

自然災害の防止・減少を図り、熱帯林減少という世界的問題の改善のため、インドネシア政府と共同で2005年度からジャワ島パリアン野生動物保護林で実施

